

# 「子どもまんなか 新しいみんなの木津川市をつくる」政策

2023/1/29現在

## 現市政に対する評価

河井規子市長が今期限りの退陣を表明されました。合併以来4期16年間の市長でした。必ずしも多数が祝福した3町合併による木津川市の誕生ではなかったのに、市政運営は多くの困難を伴うものであっただろうと推察されます。16年間にわたり市長としての重責を果たしてこられたことには敬意を表したいと思います。敬意は表しつつも、これまでの市政についての評価は虚心に行わねばならないと考えます。

○地方政治は住民に最も身近なものはずです。しかし、今の木津川市は「市民が置き去りにされている」いえむしろ「市民が無視されている」とさえ感じます。重要な政策に対する行政の長、政治家である市長の思い・考え方を市民に直接説明するという姿勢が全く見られないことが、市民の中に不信や諦めをつくり出しているように思います。



○木津川市で喫緊の課題となっている小中学校の在り方、消防署の統合移転、メガソーラー建設等々は、教育、いのち、財産、環境、防災といった住民の生活に直結する重要な問題です。にもかかわらず、行政内部でほぼ決定してから、唐突に住民に説明をするという、極めて強引で乱暴な進め方をされてきました。さらには、行政内部の杜撰な公文書管理、密室政治的な決定方法なども明らかとなりました。そして極め付けの「肩書きのない市民とは面談しない」といった対話拒否の姿勢は、地方自治の否定です。

○「子育てNo.1」を標榜しながら、数年後には1900人規模の全国有数の超マンモス校になる城山台小学校。市は、いずれ子どもの数が減るからと、学校の分離ではなく、応急的措置で乗り切ろうとしています。そこには「今」というかけがえのない時間を過ごす子どもを大切にという視点がありません。一方、10年後の小中学校の在り方検討が進められ、そこでは小規模校の統廃合が議論されています。過疎と過密が同時進行している事態の中で、超マンモス校は放置し、小規模校は統廃合していく。そこに一人ひとりの子どもをかけがえのない存在として守り育てる「教育の論理」はあるのでしょうか。また、高の原幼稚園が3年後に閉園されます。市・教育委員会は、保護者や教職員から何も意見を聞くことなく閉園の方針を作り、パブリックコメントでも市民から出された多数の反対の意見を無視しました。住民に寄り添い、住民の願いに耳を傾け、住民の知恵を束ねる、そういう姿勢を持たないのが現市政です。

○過疎と過密が子どもと老人を苦しめ、合併以前よりもさらにバランスを欠いた街・地域になっています。街づくり計画を欠いた行き当たりばったりの市政の結果といわざるを得ません。問題が困難であればあるほど、市民との対話を重ね、合意を作り出すことが重要です。一部の声のみを聞くというのでは、民主的でなく、公平性にも欠けます。このままの市政の継続は、「住民の参画と福祉の増進」という本来の地方自治の在り方を大きく損ない、市の将来に重大な禍根をのこします。

## 基本姿勢

- (1) 暮らしの困難や不安は、あなたの責任ではなく政治の責任です。地方自治体のトップとして、市内で生活する多様な人たちの声や力を活かす「市民のいのちとくらしを守る新しい木津川市政」を実現します。
- (2) 子ども・高齢者を守り、市内に住むすべての人が安心して暮らせる「市民の声を聞き、市民とともに作りあげる新しい木津川市政」を実現します。
- (3) 個性豊かで活気ある地域経済、人と人とのつながりで防災に強い地域社会をつくり「市民のいのち輝く新しい木津川市政」を実現します。

## 主要政策

### 1) 子どもまんなか、子どもの視点で、子どもの育ちを支えます

- \* 小中学校の学校給食の無償化をめざします。
- \* オーガニック食材の給食を推進します。
- \* 18歳までの医療費無料化を実現します。
- \* 義務教育にかかる費用への補助の拡充、就学援助の拡充をし、保護者負担軽減を図ります。
- \* 小中学校の在り方については、子どもの学ぶ権利を中心に据え、中学生以上の地域住民参加による市民協議会で慎重、丁寧に検証します。
- \* 超過大規模校の城山台小問題は、子ども・保護者・地域住民との協議の場を設定し、子どもの学びと育ちを最優先に、分離を基本とし、過密中学校問題と併せて解を探ります。
- \* 公立幼稚園、保育園の廃止計画は見直します。
- \* 特別支援教育の充実のため、木津川市版発達支援プログラムを実現します。
- \* 医療、福祉、教育の専門家が常駐する児童発達支援センターを早急に確立します。
- \* 校内・校外に子どもが安心できる居場所をつくれます。
- \* 子どもが自由に遊べる公園整備をすすめます。



### 2) だれもが暮らしやすい地域社会をめざします

- \* 高齢者団体とも協力し、高齢者が孤立せず生活できる地域づくり、一人でも安心して生きられる地域の福祉ネットワークを拡充します。
- \* 地域包括ケアシステムを充実します。
- \* 福祉に携わる人の待遇を改善します。
- \* 市民の暮らしの利便を図る公共交通システムを整備します。コミュニティバスの改善をはかります。
- \* 加齢性難聴者の補聴器購入費の助成制度をつくれます。
- \* 地域住民の憩いの場となる都市公園整備をすすめます。

### 3) 「対話」を大切にしまちづくりを進めます

- \* 市民と直接会う、話す、対話する市長と市役所にします。市長室を開放します。
- \* 市民参加の市政運営を明確にした「基本条例」を制定し、市長が出席する市政懇談会を開催します。
- \* 市長の多選は自粛し、市長の退職金は凍結します。
- \* 対話と合意によるまちづくりをすすめるため、住民が主体となつてつくる自治組織を支援します。
- \* 市職員の2%給与カット分の回復をはかります。



### 4) 豊かな環境と平和を守り、文化を育てます。

- \* 図書館を充実させ、図書館を学び集える場としていきます。
- \* 木津川アートを支援します。
- \* 木津川市の特産品の充実をはかります。
- \* 地域商業施設の活性化をはかります。
- \* 市民参加の行事やマルシェ、まちおこしの支援をすすめます。
- \* 公共施設の料金、公共サービスの民間委託、指定管理者制度の検証をし、見直します。公共施設の縮小、民営化を進める施設再編整備計画を見直します。
- \* 自然農業、有機農業を推進し、地域内の地産地消を広げ、地域内で循環する経済の仕組みをつくりまします。
- \* 木津川や里山など豊かな自然、田畑の環境を守ります。
- \* 豊かな生態系を残していける持続可能な農業を応援し、新規就農者を支援します。
- \* 消費者と手を結んだ食と農の再生をめざします。
- \* 「非核・平和宣言」の都市として、反戦、平和を積極的に発信します。
- \* 万葉からの歴史と文化があり多様な魅力を持つ木津川市の魅力を発信します。

### 5) 市民のいのち・くらしを何より大切にします

- \* 城山台9丁目1への新消防庁舎建設計画を一旦中止し、見直します。消防出張所を存続し、消防力の強化を図ります。
- \* 山城町神童寺地区でのメガソーラー建設は認めません。
- \* デ・レーケの治山治水の教えに学び、天井川対策を推進します。
- \* 水道事業の広域化・民営化に反対し、地下水使用の木津川市水道事業を継続します。
- \* 中小企業振興条例と公契約条例を作り、働く人のくらしを守ります。
- \* 障害者の自立支援と社会参加を促進します。
- \* 災害時に設置する避難場所はプライバシー保護、冷暖房などを完備した適正な施設を整備します。学校体育館へのエアコン設置を計画的に進めます。
- \* 永住外国人も含めた住民投票条例を制定します。
- \* パートナーシップ条例を制定します。
- \* ジェンダー平等を促進し、高齢者が一人で生きられるまちづくり、女性や少数者が安心して暮らせるまちづくりをすすめます。
- \* 0歳児の見守り訪問をする「おむつ定期便（仮称）」のような、育児支援の制度を創設します。
- \* 下水道料金の値上げは一旦凍結します。

